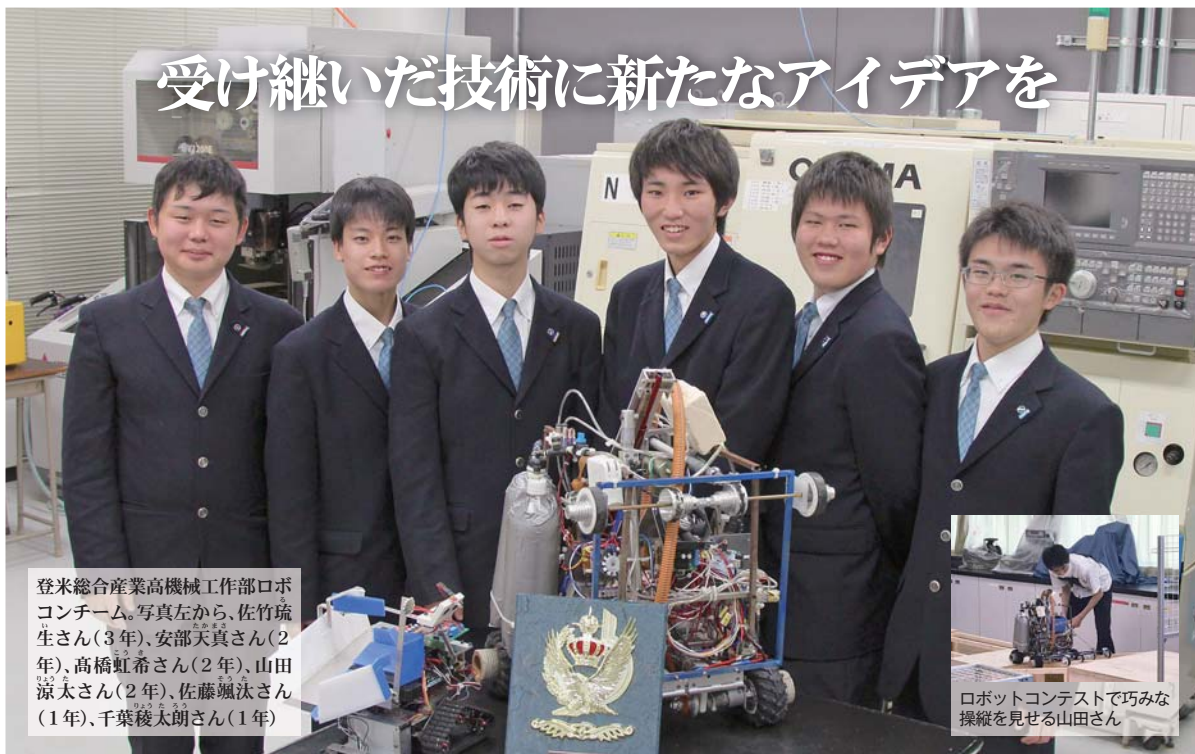


ときめき人

Tokimeki bito

受け継いだ技術に新たなアイデアを



登米総合産業高機械工作部ロボコンチーム。写真左から、佐竹琉生さん(3年)、安部天真さん(2年)、高橋虹希さん(2年)、山田涼太さん(2年)、佐藤颯汰さん(1年)、千葉稜太郎さん(1年)

ロボットコンテストで巧みな操縦を見せる山田さん

宮城県の高校生が対象のロボットコンテストは9月19日、石巻工業高で開かれ登米総合産業高機械工作部ロボコンチームが2連覇を成し遂げた。

目標は県2連覇、そして全国大会予選突破だったが、6月2日、新型コロナにより全国大会の中止が決定。インターハイや甲子園も中止、悔しいのは自分たちだけじゃないと言い聞かせ前を向いた。

6月中旬、県大会が開催されることが決まり、すぐさまロボット製作に取り掛かった。競技はコース上のアイテムをロボットを使って指定箇所に搬送するもので、2回走行し、どちらか得点が高い方で順位が決まる。高得点エリアに置く性能と足回りに重点をおき、意見を出し合い作り上げた。

迎えた大会当日、部品トラブルで競技直前まで

整備が続く。操縦は2年の山田涼太さんが担当。緊張からか1走目終了時点で下から2番目の順位。全校の走行を見ていたチーム唯一の3年の佐竹琉生さんは「うちのロボットは優勝できるスペックがある。練習だと思って気軽にやってこい」と山田君を送り出した。その言葉は自信となり1走目とは別人のような操縦で一番高い場所の高得点エリアにアイテムを乗せ、会場を沸かせた。終わってみると2位に大差をつけての圧勝だった。

「あきらめずチームで乗り切る団結力が優勝につながった」と顧問の相沢牧彦先生は分析する。次の目標は、県3連覇からの全国大会予選突破。先輩たちが残してくれた技術に新たなアイデアを。ものづくりに懸ける若者の今後が楽しみだ。

編集後記

▼今号の特集「もくもくと生きる」では、約50人もの関係者に取材や資料提供など、たくさんのご協力をいただきました。旧津山町民の思いが形になり完成した「もくもくランド」。多くの人の思いが、広報紙を通して皆さんに伝われば幸いです。(三浦)

▼今年は新型コロナの影響で市内のイベントがことごとく中止。そのため取材が少なかったのですが、今号はたくさんの方の取材する機会に恵まれました。取材三昧の日々を送っていたら、あっという間に12月。皆さん体調管理に気を付けて、温かくしてお過ごしください。(小野寺)

▼寒さが一段と厳しくなり、近隣から初雪の便りが届き始めました。まだまだ冬の中間点、これから一層厳しい寒さがやって来ます。日ごとに増す寒気と共に、いよいよ押し迫る暮れ。すぐそこまで来ている1年の締めくくりに向けて、やり残しの無いようしっかりと再確認を。(佐々木)



登米市公式ホームページ

(新型コロナウイルス感染症の影響に伴うイベント中止などの情報は市公式ホームページでお知らせしています。) <https://www.city.tomiyagi.jp/>



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。) <https://mail.cous.jp/tomecity/>